

# 「コンピュータが考える」正誤表

初刷の正誤表 (2022年9月27日)

頁	場所	誤	正																		
p.10	2-4 行目	「その機械学習手法のことを deep learning (...) と呼ばれます。」	「その機械学習手法のことを deep learning (...) と呼びます。」																		
p.10	12 行目	「... からの出力と出力の教師データとの」	「... からの出力と教師データとの」																		
p.17	下から 3 行目	「探索にかかる探索に対してのコスト」	「探索にかかるコスト」																		
p.19	15 行目	「勘違いしてしまい」	「勘違いしてしまい」																		
p.28	3.1 節に入る前の最後の文	「この章では、客観と主観を捉えた論理によって人が行う推測や事象の記述がなされるのかを見ていきます。」	「この章では、どのように客観と主観を捉えた論理によって人が行う推測や事象の記述がなされるのかを見ていきます。」																		
p.47	11 行目	「また、もうひとつの問題として、... に関しての統一的な見解がないということです。」	「また、もうひとつの問題として、... に関しての統一的な見解がないということがあげられます。」																		
p.47	14 行目	「そのため、それぞれのエキスパートシステムは、... システム内部に実装していたということです。」	「そのため、それぞれのエキスパートシステムは、... システム内部に実装していました。」																		
p.48	脚注 4	<\name>	</name>																		
p.50	4.4 節に入る直前の文	「次章」	「次節」																		
p.57	脚注、最後の行	「学ぶことにを」	「学ぶことを」																		
p.59	コラム、下から 2 行目	「深層学習モデルにおいては」	「深層学習モデルについては」																		
p.68	下から 7 行目	「長期報酬」	「遅延報酬」																		
p.68	最後の行	「それを... によって定式化されます。」	「それは... によって定式化されます。」																		
p.74	下から 1,2,6 行目	「観数」	「関数」																		
p.76	3 行目	「観数」	「関数」																		
p.86	17 行目	「表記されます」	「表記します」																		
p.101	3 行目	「 $w_{ji}(t)$ をすると」	「 $w_{ji}(t)$ とすると」																		
p.102	一番下の真理表	<table border="1"> <tr> <td>真理値</td> <td>P</td> <td>Q</td> </tr> <tr> <td>P</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Q</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </table>	真理値	P	Q	P	0	1	Q	1	0	<table border="1"> <tr> <td>P\Q</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </table>	P\Q	0	1	0	0	1	1	1	0
真理値	P	Q																			
P	0	1																			
Q	1	0																			
P\Q	0	1																			
0	0	1																			
1	1	0																			
p.113	上から 2 行目、下から 4 行	「半坡」	「半波」																		

頁	場所	誤	正
p.120	「忘却ゲート」の節 4 行目	$x_{t-1}$	$x_t$
p.124	8 行目	「世界戦優勝経験である」	「世界戦優勝経験者である」
p.130	下から 4 行目	「様々な個性のもった個体を」	「様々な個性をもった個体を」
p.132	下から 3 行目	ルビの部分：「交叉率（こうさりつ）」	ルビの部分：「交叉率（こうさりつ）」
p.147	4 行目	「内積とは、 $\mathcal{R}^n$ を $n$ 次元実数空間とするとき、...	「 $\mathcal{R}^n$ を $n$ 次元実数空間とするとき、...
p.147	コラム内下から 2 行目	$\theta = \frac{\pi}{2}$ であることから $\cos \frac{\pi}{2} = 1$ となり、 $\cos 0 = 1$ より $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} =  \mathbf{a}  \mathbf{b} $ となります。	$\theta = \frac{\pi}{2}$ であることから $\cos \frac{\pi}{2} = 0$ となり、 $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0$ となり、同じ方向を向いている場合、つまり $\theta = 0$ のとき、 $\cos 0 = 1$ より $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} =  \mathbf{a}  \mathbf{b} $ となります。
p.148	9 行目	「、意味を扱う上でも処理をする上でとても重要なものとなります。」	「、意味を扱う上でも処理をする上でとても重要なものとなります。」
p.148	10 行目	「次の章では」	「次の節では」
p.153	10 行目	「依存関係が捉えることが」	「依存関係を捉えることが」
p.153	下から 5 行目	「... (feed forward) への入力し」	「... (feed forward) へ入力し」
p.155	8 行目	「各々の位置情報と違いの関連度を算出する注意機構だけで...」	「各語彙の位置情報と注意機構だけで...」